

結 果 の 概 要

1 出生数は減少

出生数は 67 万 1270 人で、前年の 68 万 6173 人より 1 万 4903 人減少し、明治 32(1899)年の人口動態調査開始以来最少となった。出生率(人口千対)は 5.6 で前年の 5.7 より低下し、合計特殊出生率は 1.14 で前年の 1.15 より低下し、過去最低となった。(第 1 表、第 2 表、第 3 表)

母の年齢(5 歳階級)別にみると、出生数は 14 歳以下、30～34 歳、50 歳以上で前年より増加し、その他の各階級では減少した(第 6 表(1))。

出生順位別にみると、出生数はいずれの出生順位についても前年より減少した(第 6 表(2))。

2 死亡数は減少

死亡数は 158 万 9533 人で、前年の 160 万 5378 人より 1 万 5845 人減少し、5 年ぶりの減少となった。死亡率(人口千対)は 13.3 で前年と同率となっている。(第 1 表、第 2 表)

死因別にみると、前年と同様、死亡数の死因順位第 1 位は悪性新生物<腫瘍>で 37 万 8829 人(死亡総数に占める割合は 23.8%)、第 2 位は心疾患(高血圧性を除く)(同 13.9%)、第 3 位は老衰(同 13.5%)となっている(第 7 表)。

年齢調整死亡率(人口千対)は男 13.9、女 7.7 で、男女とも前年の男 14.2、女 7.8 より低下した(第 1 表)。

3 自然増減数はマイナス

出生数と死亡数の差である自然増減数は△91 万 8263 人で、前年の△91 万 9205 人よりマイナス幅が縮小したが、19 年連続のマイナスとなった。自然増減率(人口千対)は△7.7 となっている。(第 1 表、第 2 表)

4 死産数は増加

死産数は 1 万 5329 胎で、前年の 1 万 5323 胎より 6 胎増加し、死産率(出産(出生+死産)千対)は 22.3 で、前年の 21.8 より上昇した(第 1 表)。

5 婚姻件数は増加

婚姻件数は 48 万 9158 組で、前年の 48 万 5092 組より 4066 組増加し、婚姻率(人口千対)は 4.1 で前年の 4.0 より上昇した(第 1 表)。

6 離婚件数は減少

離婚件数は 17 万 9073 組で、前年の 18 万 5904 組より 6831 組減少し、離婚率(人口千対)は 1.50 で前年の 1.55 より低下した(第 1 表)。